

『わたしたちもみんな子どもだった 戦争が日常だった私たちの体験記』
和久井 香菜子／著 ハガツサブックス 210.77



終戦を告げる玉音放送。当時その放送を聞いていたのは、大人だけではありません。皆さんと同じ若者だった人々も同様に耳を傾けていました。戦争が日常だった時代の若者たち。その終戦の瞬間の思いを辿る体験記です。

『しあわせなときの地図』

フラン・ヌニョ／文
ズザンナ・セレイ／絵
宇野 和美／訳
ほるぷ出版 Eヌ



戦争のせいで、ソエは、生まれてからずっと暮らしてきた町を離れなければならなくなりました。町を離れる前に、ソエは町の地図を広げ、楽しかったことを思い出しながら印を付けていきます。家、学校、図書館、公園、川……。付けた印を結んでいくと……。

『計画と無計画のあいだ』

三島 邦弘／著 河出書房新社 023.1ミ

出版社を作ることを決めてからの奮闘の日々を綴った一冊。読後、タイトルに込められた意味を知るだろう。



『ふたえ』

白河 三兔／著 祥伝社 913.6シ



高2のある日、修学旅行の班決めがあり、“ぼっち”6人を集めた「ぼっち班」で3泊4日行動を共にすることになります。自身の視点で語られるそれぞれの秘めた過去や思いが明らかになるにつれ、物物が加速度をあげて進みます。

『ふしぎの森のふしぎ』ヤン・パウル・スクッテン／文
メディ・オーブレンドルフ／絵 塩崎 香織／訳 化学同人

K653入



森を楽しみませんか。一步ふみ入れたら不思議な世界が広がる森の中。菌糸を使って地下にネットワークを広げている古い木の話や、地球の支配者は実は6本足の生物であるという話など、森の秘密を楽しめるイラスト図鑑です。

『ぼくを探しに』 『ビッグ・オーとの出会い 続 ぼくを探しに』
シェル・シルヴァスタイン／著 倉橋 由美子／訳 講談社 726.5シ

ぼくは、自分に足りないかけらを探しながら転がり続ける。ぴったりはまるかけらを見つけたけれど、転がりすぎて歌も歌えなくなった。続編でかけらは、最初自分では転がらなかったが、体を持ち上げ、一人で転がりだす。



『13歳からのジャーナリスト 社会正義を求め世界を駆ける』

伊藤 千尋／著 かがわ出版 070.1イ



ジャーナリストとして世界を飛び回り活動する著者がその体験を語る。南米などでの特派員活動や日本に戻ってからの雑誌編集者時代など、いずれも、知りたいことを納得いくまで取材して伝えるジャーナリストの心意気が伝わってくる。

『にげましょう 災害でいのちをなくさないために 特別版』

河田 恵昭／著 共同通信社 369.3カ

「地震！ 水害！ にげましょう」でも、いざ言われてもどうやって？ 災害から命を守る「避難」を絵で学ぼう。



『ぼくの ポーポが こいをした』

村田 沙耶香／作 米増 由香／絵 岩崎書店 Eム



ぬいぐるみのポーポと結婚式をあげる僕のおばあちゃん。僕は反対していました。でも、いつか恋する日、おばあちゃんみたいに真っすぐ背筋を伸ばしていただけるのかな…。芥川賞作家、村田沙耶香さんがおくる恋の絵本です。

『ちいさなちいさな王様』アクセル・ハッケ／作 講談社 K943ハ
ミヒヤエル・ゾーヴァ／絵 那須田 淳・木本 栄／共訳

僕は小さな王様と語り合う。夢と現実どちらが本当？ 見えないものが存在するとは？ 永遠の命とは？ 忘れても覚えている記憶とは？ 王様は段々小さくなって、最後には見えなくなってしまう。この王様とは何だったのだろう。

